

| 項目 | 確認事項 | 届出内容 |
|------|--|---|
| 基本情報 | 大学等名1(代表大学等) | 就実大学 |
| | 大学等名1(代表大学等)※カナ | シュウジツダイガク |
| | 大学等名1(代表大学等)※学校コード | F133310109590 |
| | 大学等名1(代表大学等)学校本部所在地 | 岡山県 |
| | 大学等名1(代表大学等)学校種別 | 私立大学 |
| | 科目名 | 長期インターンシップ |
| | 学部・研究科等名 | 経営学部経営学科 |
| | 担当教職員名・役職 | 古塚秀夫: 教授 (その他 経営学部経営学科全教員) |
| | 受講者数実績年度 | 令和2年度 |
| | 受講者数※インターンシップ参加者数 | 77 |
| | 受入企業等数 | 60 |
| | 受入企業等名 | (公財)大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院、岡山市中区役所、(一社)岡山青年会館、菅公学生服グループカンコーマナボネクト(株)、(株)グロップ、(株)ストライプインターナショナル、(株)中国銀行、中国電力(株)、(株)トミヤコーポレーション、両備ホールディングス(株) 他50社 |
| | インターンシップの分類 | 1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ |
| | 上記以外のインターンシップの分類(記述欄) | |
| 要素① | 1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。 | 1.はい |
| | 1-2.該当する就業体験 | 1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等) |
| | 1-2.で「3.その他」の就業体験の内容 | |
| | 1-3.上記回答内容に関する詳細 | 岡山県を代表する多種多様な業界・業種の企業・団体(※令和2年度は60社)にて、50日に渡る長期間のインターンシップ実習を経験することで、社会人としてのコミュニケーション力や実践力、問題解決力を養う。また、将来の仕事を選ぶための知識や経験を身につけながら、長期インターンシップ後に学ぶべき課題を具体化する。(※R2年度は新型コロナウイルスの影響により、一部の派遣先で実習日数が異なった。) |
| 要素② | 2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。 | 1.はい |
| | 2-2.該当するインターンシップの内容 | 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している |
| | 2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容 | |
| | 2-3.当該インターンシップを実施する年次 | 大学 学部2年 |
| | 2-4.当該インターンシップで付与される単位数 | 大学 8単位 |

| | |
|---|---|
| 2-5.上記回答内容に関する詳細 | <p>本学の経営学部では、2年次後期に専門教育科目「専門インターン」の履修が必須である。この科目は、【グローバル・ビジネス・マネジメントコース】と【リージョナル・ビジネス・マネジメントコース】の2コースに分けられており、【リージョナル・ビジネス・マネジメントコース】の必修科目として、「長期インターンシップ」は位置づけられている。</p> |
| 3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。 | 1.はい |
| 3-2-1.該当する事前学習の内容 | <p>1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている</p> <p>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている</p> <p>3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている</p> <p>4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している</p> <p>5.その他</p> |
| 3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容 | 特別講義として、ストレスマネジメント研修を実施。 |
| 3-2-2.該当する事後学習の内容 | <p>1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている</p> <p>2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている</p> <p>3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている</p> |
| 3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容 | |
| 3-2-3.該当するモニタリング | <p>1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している</p> <p>2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している</p> |
| 3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容 | |
| 3-3-1.事前学習の内容に関する詳細 | <p>学生は、1年次後期に「長期インターンシップ合同説明会」に参加し、派遣先企業についての理解を深めたのち、ゼミ担当教員と面談を行い、自己に適した派遣先を決定した。2年次前期からは専門ゼミナールや講師・弁護士による特別講義（マナー研修やストレスマネジメント研修）を受講し、社会で働く上での意識の醸成を行った。</p> |

| | | |
|-----|--|--|
| | 3-3-2.事後学習の内容に関する詳細 | 学生は、インターンシップ終了後に3種類の課題レポート（派遣先企業や関連産業の文化理解の課題・企業別の研修課題・自主課題による地域経済に関する視野拡大の課題）と「長期インターンシップ報告書」を作成した。また、これらをまとめたプレゼンテーションの発表を行った。また、翌年4月の「グローバル報告会」においては、学生同士のディスカッションや教員・派遣先担当者等からのコメントによるフィードバックがあった。 |
| | 3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細 | インターンシップ期間中、毎週金曜日に専門ゼミナールが実施された。学生は週ごとの活動報告や学び・気づきをまとめた「ウィークリーレポート」を持参し、担当教員に報告した。加えて、月に1度は「マンスリーレポート」の提出も行った。また、教員による派遣先への訪問によるモニタリングの実施を行い、学生の派遣先での様子の把握に努めた。 |
| 要素④ | 4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。 | 1.はい |
| | 4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み | 1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している |
| | 4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み | |
| | 4-3.上記回答内容に関する詳細 | 教員は、学生がインターンシップ後に提出したレポートと報告書、プレゼンテーションの発表内容を踏まえて、達成目標に対する到達度をルーブリック方式で採点した。また、派遣先企業から学生の評価を記入した「長期インターンシップ評価報告書」を提出して頂くことで、定性的データとした。 |
| 要素⑤ | 5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。 | 1.はい |
| | | 4.その他 |
| | 5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合 | |
| | 5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合 | |
| | 5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合 | |
| | 5-2.「4.その他」の実施期間の内容 | 原則、総勤務日数50日間 |
| | 5-3.上記回答内容に関する詳細 | 本学の長期インターンシップは、原則、総勤務日数を50日間としている。ただし、教員と派遣先とで調整したのち必要に応じて、総勤務日数35日間+15日間の学内学習を選択することも可能である。（※R2年度は新型コロナウイルスの影響により、派遣先によって総勤務日数が異なった。） |
| | 6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。 | 1.はい |
| | 6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容 | 1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している |

| | | |
|--------|--|---|
| 要素⑥ | | 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている |
| | | 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している |
| | | 6.企業と協働して、P D C Aを実施している |
| | 6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容 | |
| | 6-3.上記回答内容に関する詳細 | インターンシップ実施にあたり、教員と派遣先とが協同でプログラム設計を行い、前年度の改善点等をブラッシュアップした。また期間中は、月に1度教員が派遣先に赴き、担当者と面談することで実習状況の確認や微調整も行った。実習では各派遣先から担当指導員が配置され、学生の「デイリーレポート」の確認やアドバイス等を行って頂いた。実習終了後は、派遣先担当者から「長期インターンシップ評価報告書」を提出して頂いた。また「グローバル報告会」と「提携企業交流会」にて意見等を頂いた。 |
| | 7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL | https://www.jasso.go.jp/gakusei/career/internship_infomation/jirei/_icsFiles/afieldfile/2021/04/04/shujitsu_cyouki.pdf |
| 問い合わせ先 | 大学等名 | 就実大学経営学部経営学科 |
| | 担当部署名 | 就実大学経営学部 長期インターンシップ運営委員会 |
| | 担当者役職名 | 教授 |
| | 担当者氏名 | 古塚秀夫 |
| | 電話番号 | 086-271-8486 |
| | メールアドレス | internship@shujitsu.ac.jp |